

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200003		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	ファミリー倶楽部		
所在地	熊本県上天草市松島町合津1068番地の1		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	平成29年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方は何だかの疾病をもたれているので、その疾病が悪化しないように体調管理や、状態の把握には特に気をつけ、又主治医との連絡が直ぐ摂れ連携がとれているので、利用者の家族の方も安心しておられる。利用者の方にも家庭生活の継続のように食事時間にも会話しながら笑いが出る支援ができ、居心地の良い場所作りができています。また利用者の方も自室より食堂で他の入居者の方とお喋りしながらテレビを観られている時間が多い、午前・午後にラジオ体操を毎日行っているが、体調が悪い人以外は参加されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街にあり、建物の裏手は空き地が広がり山を望むことができます。玄関には職員手作りにホームをイメージしたもの、お雛祭りの押絵が飾られており、季節感や来訪者への歓迎する雰囲気が出されています。開設から12年を過ぎて、利用者のそれぞれのペースを大事に、静かで落ち着いた生活の支援をされています。管理者と現場スタッフの協力で、利用者の生活を支える努力がされています。関連の医療法人との連携では、利用者の健康管理のほか、年2回の法人合同の職員の研究発表会が行われています。月に1回ずつの法人内2事業所による職員研修も行われ、法人として組織の管理への意識の高さが伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が暮らしてきた生活を大切に、その人らしい生活が送れるように理念をつくり、個々の日々の生活の支援を行っている。	月1回のミーティングで理念についての理解が確認されています。管理者を中心に日々業務の中での理念を反映したケアを心掛けています。	理念を日々の業務の中に落とし込まれ、ケアの実践の具体例としてつながるような話し合いになることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区公民館の大掃除参加、資源ごみの収集など、行事参加だけではなく準備の手伝いもできる範囲で協力し、交流を図っている。	地域の事業所として認知していただきたいという思いのもと、行事参加はもちろん、準備のお手伝いやごみ収集に参加されています。社協の協力を得て、月1回傾聴ボランティアを受け入れています。	現状できていることのほかに、行事に合わせて近隣の方にお茶を振舞うなどの広がりができるとよいですね。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症の理解をしていただくために活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、サービスの実際等や、利用者様の状況、他の取り組み等を報告し、委員の方からはいろいろな意見をいただいたり、アドバイスをもらい、サービスの改善や向上に活かしている。	行政からの担当者出席もあり、事業所の報告を中心に適宜行われて、意見を求められています。管理者は地区の代表の方の事業所に対する理解が深まるよう努力されています。	災害時の対策など、行政担当者や地区の役員さんにも確認をして事業所の運営に役立てていかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度やその他分からない事は、担当者の方に聞いたりして、また推進会議に出席された職員の方から意見等が聞ける。	運営推進会議に市の担当者が出席されることもあり、良好な関係が築かれています。	制度変更に伴う利用者さんへの対応など、積極的に相談されることで地域の事業所としてさらに連携を進めていかれることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で、学んできた事をみんなに周知し、取り組んでいる。また身体や生命に危険が及ぶような時は、家族の方と話し合いの場を設け、又同意書を作成し同意を得ている。	法人内グループホーム合同の勉強会の研修において職員全体で知識を共有するほか、外部研修へも参加し、周知の努力をされています。	利用者さん安全確保のためのセンサー利用時など、目的、目標や期間、方法を明確にしてご家族の理解をさらに進めていかれるとよいでしょう。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてはミーティング等の勉強会で、学び絶対ないように注意を払い、防止に努め、もちろん起こってもいい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの勉強会や外部主催の研修会で、制度の理解をしてもらい、制度が必要な方には活用ができるような支援を心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には利用者、家族等に入居に関しての説明をし、不安や疑問点を尋ねた上で、理解や納得してもらってから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けてないが、面会時等日頃から不満や苦情を言えるような雰囲気にし、また意見シートの設置で、相談にのりそれらを運営に反映できるように努力している。	本人の状態に応じて食事の改善をしたり、ケアを変えるなど、口頭にてご家族への説明がされています。面会時に聞き取る努力はされていますが、積極的に意見など聞かれることは少ないようです。	当事者家族以外の意見として扱うことで広く改善の様子を公表し、意見や要望を言ってよいという雰囲気づくりをされてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや職員の交流会で機会を設け反映に生かしている。又普段から遠慮なく意見を言える雰囲気作りにも努め、毎日の申し送りや個々の気付いた点が反映できるようにしている。	月1回のミーティングで事業所内の、意見交換や意思疎通は行われています。日々の業務の中での気づきなどは、管理者、職員間で共有することを努めています。職員は交代で月1回の代表者との報告を兼ねたミーティングも行っています。	お話をされた内容から、法人内の協力をもらいながら事業所としての新たな取り組みに広がることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいような環境整備ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人内の研究発表会を設け、それに対し自己研修や、グループ研修の機会を作り、職員の育成や研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回の同業者との勉強会を開催し、その時お互いの活動報告や、交流が得られ開催を通じサービスの質を向上させていく取り組みに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方から直接聞かれたり、また利用者の方から聞かれない時は、行動や仕草で不安なこと、求めていることを観察し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時の施設見学等から、家族の話を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にこられる時は、直の入居希望がほとんどで、入居できる時は入居してもらおう事ができるが、その他は今利用できるサービスの紹介を行うなど、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様は大家族の中で、生活を共にしてるんだと考え、日々の暮らしを支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、些細なことでも今までなかった出来事や、職員と楽しく会話されたことなどを話したりして、良い関係が築け、家族の方と一緒に支えていけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などには関係が途切れないように、ホームに案内したりして努力しているが、お互い高齢になり、難しくなっている。	家族の面会があり、差し入れが行われています。高齢化に伴い家族以外のつながりが希薄になりがちと捉えられている分、スタッフ、利用者間の新たな馴染みの関係づくりとして大切に関わっています。	通院時などを利用して、古くからの馴染みの風景を見に行くなどができるとういですね。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は上手くできているが、たまに口喧嘩が起こる場合がある。その時は孤立させないよう話を聴き支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、どうされているか近況を電話で尋ねたり、家族に会ったりしてつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や散歩時入居者のふとした言葉の中に新たな思いの発見をする時がある。そのような言葉や表情、仕草等を見逃さず、入居者の満足のいく生活に反映できるよう努めている。	入居時の聞き取りが基本になっていますが、管理者を中心に職員が日常的に利用者さんを注意深く観察することにより、思いを図る努力がされています。	長い利用者さんがいらっしゃいます。今一度家族へ生活歴や好みを聴き取り、フェイスシートの見直しをされてもよいですね。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人から、又は家族からこれまでの経過や利用してこられたサービス機関からの情報や普段の生活の中での会話で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、一人ひとりの日々の生活を観察し、総合的に把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画を作成しそれに基づいて、職員、家族等と話し合い、利用者本位の計画に作成ができるよう、担当者を作り全員で取り組み、ケアプランと介護計画が連動するよう努めている。	ケアプランから介護計画、見直しという一連の流れはできています。担当制をとられて、日々のケアに反映されていますが、記録の取り方にやや弱い面が見られます。	家族の面会は行われています。その機会を利用して、積極的に家族をより巻き込み、ケア担当者会議の充実を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気づき等の記録は残し情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状況に応じて、母体の医院に入院して治療ができたり、訪問看護の利用ができ、柔軟な支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問ボランティアなどの協力があつたり、運営推進会議でのアドバイスで他の機関との協力ができ、地域での暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得が得られた主治医との連携が常にとれるようにできていて、適切な医療を受けられるような体制で支援している。	主治医の往診による定期的な診察を受け、必要に応じて専門医へ紹介が行われています。利用者家族へのフィードバックが弱いように見受けられます。	医療との連携は充実しています。医療機関の協力を得て、ご家族への報告を充実されることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院との契約で看護師の訪問があり、日常の健康管理や医療活用の支援はできている。また利用者様の変化時には看護師に報告、相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は常に病院関係者との情報交換や相談したり連携に努め、退院後の対応についても情報交換が出来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	日頃より終末期のあり方を家族の方と話し合い、家族の意向にそえるように支援している。	重度化指針、終末期指針は整っています。ご家族の希望に沿い、平成28年は1名の看取りが行われました。	今後も医療との連携の強みを活かして、利用者本人、ご家族への意向確認をタイムリーに行い、支援されたいことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の手順をつくり、全職員が慌てず対応できるように、系列施設との合同勉強会やミーティング等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を3回実施し、又地域の方の緊急連絡網を作成し協力が得られるような協力体制を築いている。昨年4月の熊本地震では近隣の方からの声かけがあり心強く感じた。	年間計画に基づいた避難訓練のほか、災害別の避難などのマニュアル作成に取り組んでいます。	災害ごとのマニュアルは、事業所内だけでなく法人内での共有されることが望まれます。災害対策についての、家族への丁寧な説明をされるとよいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳やプライバシーを大切に し対応や言葉使いに気をつけている。又記 録等の取扱いにも十分注意をはらってい る。	事業所内におけるトイレの位置も工夫されており、プ ライバシーに配慮されていることが伺われます。 職員が居室に入入りする場合の声かけなどのマ ナーを徹底し、利用者を一人の人として尊重す ること努力が払われています。	今後も継続してケアをしていかれるこ とを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	押し付けの介護や、自立を阻害するような 介護はしないように注意をはらって行うよう 話し合って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の方は自分のペースで生活リズム ができていますが、認知症が進行し自分で生 活リズムが作れない方には、1日のリズムを 把握し、サイクル作りを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	身だしなみなどは、できない人には支援を行 い、理容、美容等も本人の望む店にいける ように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	その人のできる範囲の手伝いをしてもらいな がら、楽しく食事ができるように配慮し、また食事中 も利用者様が会話しながら楽しい雰囲気 で食事を摂られ、また行事食提供の際にはその料理の 説明により季節を感じて食べてもらっている。	利用者一人ひとりのペースに合わせて食 事をさせていただくように支援されていま す。ご本人の状態に合わせて食器やお盆 を工夫しています。家族により土地柄を 反映した食材の差し入れもされています。	行事食のほかに、日常においても地元 で馴染んだ食材の下ごしらえなどを してもらいましょう。利用者の食 べる力を維持するための嚥下体操 もさらに積極的に取り組まれ ることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士が立てた献立をもとに調理を行い、 摂取量も一人一人の状態に合わせた支 援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	自分でできる人は、自分で歯磨きをして もらい、介助が必要な人は支援にて 毎食後口腔ケアを行っている。義 歯洗浄は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でできる人には転倒などの事故に気をつけ、支援が必要な人にはさりげなく声かけを行い、失敗がないような支援ができるよう努力している。一人一人の排泄パターンを把握して誘導している。	現在は自立している利用者が大部分です。必要な方には、時間帯や状況に応じて支援が行われています。	高齢に伴い必要な支援のしかたが変化します。特に夜間の行動を観察しての個人ごとの支援を職員間で共有されることを期待されます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで、個々の排便がスムーズにいくように支援し頑固な時は、主治医の指示のもとで下剤を服用してもらい、運動等で排便を促す支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴パターンを把握し、個々の好みに応じた入浴の支援を行い、意志の表現がない人には職員が声かけを行い、入浴ができるようにし又疾患に応じ湯船の時間にも細心の注意を払い快適な入浴となるよう努めている。	2日に1回、週3回以上の入浴を実施しています。しょうぶ湯などの季節湯も楽しんでいます。	音楽を聴きながら入浴できるなど、個人の好みを反映した入浴のしかたの工夫をされえることもよいでしょう。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みなさん自分が休みたいときには、自室に行かれベッドで休まれているが、自分できない方にはその方の状況を見て休息できるように自室への移動介助を行うなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の処方把握し、服薬時は飲み込みまで確認し支援が必要な人には介助し、変化時には主治医への連絡が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には一緒に歌ったり、テーブル拭き、せんたく物干し、たたみなど、その人のできる事の役割をしてもらったりして、張り合いや喜びのある日々が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたりして、希望に添って出かけられるように努めているが、年々高齢化になり希望がされる方が少なくなっているが、家族が迎えにこられ外出されることもある。	日当たりよいデッキで、お茶を飲みながら日光浴や外気浴などを日常的に楽しんでいます。回数、頻度は減っていますが、歩行可能な方は事業所周辺のお散歩をすることもあります。	外出を望まれないには理由があります。下肢力の低下を防止するためにも不安を感じずできる近隣の散歩を日常化するなど、利用者によって偏りのない支援が行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じてお金を所持されており、希望があれば一緒に出かけて買い物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があれば、かけ電話で話してもらったり、手紙が届いたら返事を書かれるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花、行事の飾りつけで季節感を感じてもらい、それによって利用者内の会話に一助にもなっている	玄関ホールはデッキに続く向い側の窓も広く日光を取り入れ明るく、利用者にとっても心地よい空間になっています。職員手作りの季節の押絵が飾られ和んだ雰囲気を醸し出しています。さり気なく職員が見守りながら、記録などをとれる事務スペースも確保されています。	お花を飾ったり、季節感を大切にされている様子です。引き続き、継続していかれることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を確保し、自分なりに自由に過ごされたり、利用者同士の語らいには食堂にきて過ごされている又個人の部屋を訪問しお喋りをして過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好みの物を持ち込まれたりして、本人が好きなような使い方をされている。	家族の写真なども飾られており、利用者本人の日中の居室への出入りも頻繁に行われ、夜寝るだけの空間ではない居室となっています。	タンスを置くことが、室内での安全確保や生活空間を演出に役立つことを、管理者が認識されています。ご家族との協力のもと、よりその人らしい空間作りをされることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗を招かないような環境づくりを心がけ、自立した生活が送れるよう貼り紙での工夫をしている。		